

第 27 回 東海村地域公共交通会議

【日 時】	令和 3 年 6 月 24 日(木) 10 時 00 分～11 時 00 分	
【場 所】	東海村役場 行政棟5階 原子力視察研修室	
【出席者】	(委 員)	出席 20 名(うち代理 1 人)／欠席 3 名
	(オブザーバー)	出席 3 名

<配布資料>

- ・ 東海村地域公共交通会議委員名簿
- ・ 東海村地域公共交通会議設置要綱
- ・ 資料 1 公共交通の利用実績【令和2年度】
- ・ 資料 1-2 茨城交通(株)路線バス 年度別利用実績
- ・ 資料 1-3 デマンドタクシー「あいのりくん」年度別利用実績
- ・ 資料 2 今後のスケジュールについて
- ・ 参考資料 東海村高齢者運転免許自主返納支援事業
- ・ 参考資料 おでかけデマンド利用方法
- ・ 資料 3 東海村地域内フィーダー系統確保維持計画(案)
- ・ ひたち圏域 MaaS の取組について【当日配布】

1. 開会(企画経営課)

2. あいさつ

(萩谷副村長)

皆さんこんにちは。本日はお忙しい中第 27 回東海村地域公共交通会議に御出席いただきまして、ありがとうございます。

昨年度、本会議は 3 回ほど開催しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、うち、2 回は書面開催となってしまいました。

現在のところ茨城県内における感染者については、比較的少なく、落ち着いている状況を見せていると思いますが、感染性の高い変異株が増えてきている状況ですので、気を緩めることなく、引き続き、感染防止対策を徹底して参りたいと思います。

このような中、本村のデマンドタクシーや、路線バスの利用状況は、大きく減少しておりますが、感染防止のために、不要不急の外出自粛などを要請しておりますので、これはやむを得ない面もあると思っております。

そういった中、本村では交通事業者に対しまして、様々な支援等を行って参りました。また、今後は、地域公共交通の利用者を増やすため、新型コロナウイルスのワクチン接種も急ぎ進めていく必要があると思っております。

何れにいたしましても地域公共交通は、私たちの日常の足として、そして、環境的な側面からも確保していかなければならないと思っております。

そのために何ができるのか、先進的な技術の活用なども視野に入れながら、皆さんとともに検討して参りたいと思っております。

本日は、昨年度の利用状況報告や、地域内フィーダ系統確保維持計画の審議等を予定しておりますので、様々な立場からのご意見をよろしくお願いいたします。

また、茨城交通(株)様からは、ひたち圏域 MaaS の取組についての御説明もありますので、改めてその取組について御確認いただければと思います。

なお、現在の委員の皆様につきましては、今月末をもちまして任期満了となります。2 年間の任期を務めていただきまして大変ありがとうございます。

本村の地域公共交通のさらなる発展のために、引き続き 7 月以降も、委員お願いしたいと考えておりますので、委嘱の依頼をさせていただいた際には、何卒ご承諾いただきますよう、よろしくお願いいたします。

簡単ではありますが、開催にあたりましての挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

委員紹介

3. 報告

(1) 公共交通の利用状況について

- 「(資料 1) 公共交通の利用実績【令和 2 年度】」「(資料 1-2)茨城交通(株)路線バス年度別利用実績」「(資料 1-3) デマンドタクシー「あいのりくん」年度別利用実績」に基づき説明(事務局)

【質疑・意見】

(委員) 東海村の路線バス利用状況は、資料 1-1, 1-2 を見ると、前年度との比較があり、大体 20% 程度減少している状況となっている。茨城交通(株)全体としては、前年の 30% 減となっており、そういう意味では東海村の路線バスは、全体から比べると、減少率が少なかったのではないかなと思う。今年度の茨城交通(株)全体での利用状況については、大体 73% から 75% の収益があり、25% から 27% ぐらいの減で、推移している。今後、ワクチン接種が広がってくれば、収益も持ち直してくると思っている。また、高速バスの運行については、ほとんど運休状態であり、東海村を運行する「成田・羽田路線」も運休し、「東京線」については、通常 7 便、7 往復で運行していたが、現在は 1 往復で運行している。高速バスの運行については、通常の半分も乗車していない状況である。

(委員) 一般タクシーの昨年 4 月から 6 月収益は、前年度と比較すると 50% 未満となっている。一方、デマンドタクシーは、新型コロナウイルスの影響は受けてはいるが、一般タクシーより利用者が確保できていたと推測できる。デマンドタクシーの利用者は、ワクチン接種が進んだことも影響し、今年から少しずつ増加しており、利用者数も回復に向かっているのではないかと考えている。

(2) 今後のスケジュールについて

- 「(資料2) 今後のスケジュールについて」に基づき説明(事務局)

【質疑・意見】

(委員) デマンドタクシーのキャンセル対策強化と記載があるが、どのような対策なのか。また、Web 予約のキャンセルについては、単にキャンセルするだけになっており、キャンセルの理由を聞くことが出来なくなるのではないか。

(事務局) キャンセルの理由については、高齢の方の利用が多いので、予約したこと自体を忘れてしまう方がいるとオペレーターから伺っている。そのためこれまでも、ドライバーやオペレーターからの声かけによる、注意喚起をしていた。今後は、耳からの情報に加えて、目からの情報でも確認できるよう、タクシー車内での張り紙等によるキャンセル対策を検討していきたい。

また、Web 予約システムについては、御意見いただいた通りキャンセル理由まで把握できるものではないため、システムの変更ができるかどうかも含め検討していきたい。

(委員) キャンセルの理由を聞くのは、個人の事情に一步踏み込むこととなるので、あんまり望ましいことではないと思う。例えばアンケートで確認する等検討してほしい。

(委員) デマンドタクシーの利用者は高齢者が多いのではないか。高齢者はスマホを使えない人が6割から8割程度いると感じるが、今後の予約方法はどのように考えているのか。また、デマンドタクシーは事前登録制なのか。

(事務局) デマンドタクシーの利用は、事前登録制で、登録をすると予約を取ることができる。今後始まるWeb 予約システムも事前登録が必要となる。しかし、電話予約を利用するのか、Web システムを利用するかは、利用者の判断になる。自分に合った予約方法を選択できるので、予約方法の選択肢が増えるという点では、利便性の向上に繋がると考えている。

(委員) ドライバーが迎えに行った際、利用者が乗車場所にいないこともあるだろう。その場合の対応はどのようにするのか。

(事務局) 予約したことを忘れ、ドライバーが迎えに行っても乗車場所にいない利用者もいる。その場合は、ドライバーからオペレーターに連絡がいき、オペレーターから利用者に連絡をしてキャンセルする流れになっている。Web 予約システム導入後も、利用者が乗車場所にいない場合は、同じように対応する。

(委員) コロナワクチンの予約についても、WEB 予約を使えない人が多くいた。特にデマンドタクシーの利用者は、高齢者が多いので、予約方法等については利用者が予約しやすい方法を検討し、臨機応変に対応してほしい。

(委員) Web 予約での代理操作を本人以外が予約していいと公言できるのは、個人情報の観点からすると難しいが、今後の運用の中で、悪用されないように工夫してほしいと思う。

（委員）県での取組としては、新型コロナウイルスの状況をどう打開していくかを課題としている。昨日、県知事からも会見で発表したが、一時金を支給する形で、交通事業者への支援を考えている。その他に、「デジタルトランスフォーメーション」の取組を推進する交通事業者の支援を、同時並行で進めている状況である。また資料説明の中で、Web 予約システム導入の話があったが、利用者の選択肢が増えることは良いことだと思うが、高齢者は Web 予約を利用しにくいのではないかと。どのように Web 予約を普及啓発していくのか、決まっている方向性があれば教えてほしい。

（事務局）デジタル化やデジタルトランスフォーメーション等に関しては、企画経営課の別担当で推進しているところである。今回の Web 予約システムに関しても、デジタル化の推進担当と連携し、積極的にPRしていきたいと考えている。

（委員）今後 10 年ぐらいが、高齢者に対するデジタル機器の活用が心配な時期だと思うが、それ以降は、デジタル機器の利用が当たり前の方が高齢者になるので、心配は要らないだろう。逆に言えば、スマートフォンの活用に注目されているが、それ以外の活用、例えば音声での予約システムを考えていく等、次世代の予約システムやデジタル機器を、検討していく必要があると思う。

【オブザーバーからの公共交通に関する取組について】

（ひたちなか市）本市での取組についていくつか紹介する。まず一つ目は、ワクチン接種に関連した取組で、本市のコミュニティバスの運賃が、ワクチン接種券を提示することで、無料となる取組。ワクチン接種会場までの足の確保として実施している。次に、国からの地方創生臨時交付金を活用した事業で、茨城交通さん、ひたちなか海浜鉄道さんの乗車フリー切符等の割引販売の補助を実施している。例えば本来 1000 円のフリー切符を、事業者が 600 円で販売した場合、割引額の 400 円を市から事業者に補助するという仕組みである。この補助を実施することで、少しでも券の購入を促し、利用促進を後押ししたいと考えている。次に、ひたちなか海浜鉄道の駅の新設である。本市の海側の地区で、平磯・阿字ヶ浦地区という地区の小学校 3 つと中学校 2 つを統合し、小中一貫校の美乃浜学園が今年の 4 月 1 日開校した。これに合わせて、美乃浜学園駅を新設し、学校と自宅に一定の距離がある児童生徒については、ひたちなか海浜鉄道を使って通学してもらうことにした。最後に、ひたちなか海浜鉄道延伸事業である。今年の 1 月 15 日、国土交通省から、延伸事業許可を得ることができ、スタートラインに立つことができた。今後は、工事施工認可の許可に向け、関係機関と調整していくことになる。

（那珂市）那珂市では、令和 2 年 4 月から水戸市へのデマンドタクシー乗り入れが始まり、令和 3 年 4 月から、ひたちなか市への乗り入れを実施している。今回、ひたちなか市への乗り入れについては、水戸市乗り入れ後のアンケート調査で、ひたちなか市に行きたいという意見があり乗り入れの調整を行うことになった。そして、ひたちなか市の乗降場所を検討した結果、勝田駅の西口、小松整形外科、はやかわクリニック、加瀬病院、小浜産婦人科クリニックへの乗り入れを実施することになった。那珂市には産婦

人科が無いため、那珂市の妊婦さんは、水戸市やひたちなか市へ通院する状況にあり、タクシー会社からも、妊婦さんがデマンドで通院できるようにしてはどうかと意見があり、産婦人科を乗降場所に検討した。乗降場所は、那珂市からの送迎時間を考慮し、JR 常磐線西側から那珂市側で検討した。まだ運行開始から日が浅いため、利用者は少ないが、これから広報誌に掲載する等して、周知を図りたいと思っている。

4. 議題

(1) 地域内フィーダー系統確保維持計画について⇒了承

○ 「(資料3) 地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について」に基づき説明(事務局)

【質疑・意見】

(委員) 今回の計画申請について、補足をしたい。昨年、公共交通の活性化法が改正になったことを受け、フィーダー系統確保維持補助金の交付要綱が発出され、補助金の要件が大きく変更となった。今までは、計画の有無に関わらず、一定の要件をクリアしていれば、補助金が交付される形になっていたが、今年度からは、地域公共交通計画を策定し、その内容が要件に一致した自治体のみ、補助金が交付されることになった。東海村では、昨年度、地域公共交通計画を作成しているので、今回その内容の認定を受けていることを前提とし、今回この申請用紙で申請している。計画の認定については、国土交通省で判断されることになるので、場合によっては、地域公共交通計画の内容に追加の記載が必要になる可能性があり、補助金申請は今まで通りの様式で申請することが可能となっている。また、計画に追記が必要な場合は、計画措置期間である令和6年度までに地域公共交通計画を見直す必要がある。

5. その他

(1) ひたち圏域 MaaS の取組について

○ 「ひたち圏域 MaaS の取組について【当日配布】」に基づき説明(茨城交通(株))

【質疑・意見】

質疑・意見なし

5. 閉会(企画経営課)

- ・ 次回は令和3年10月の開催を予定している。
- ・ 委員委嘱については、改めて担当から連絡する。